

MAENOHAMA

喜入前之浜町



① 白灰焼窯跡



白灰焼窯は、通称「ヘタッコヤ」と呼ばれています。三国名勝図会にも紹介されており、貝殻(モクハチアオイ貝等)を焼いて白灰を作っていました。この白灰は良質な漆喰の材料としてまた肥料として利用されていました。

【前之浜校区国道226号線沿い】

② わいわい市前之浜館



地元産の新鮮な野菜、果物のほかに花などが展示、販売されています。また、芋もち、ふくれ菓子などが置いてあり、懐かしさを感じさせる物産館です。

【前之浜校区国道226号線沿い】

③ 前之浜の貝底橋(石橋)



国道226号線から前之浜へ入り、JR踏切手前の貝底川に架かる石橋で、喜入地域では唯一の眼鏡橋です。

【前之浜校区川上集落】

④ 前之浜の比丘尼定阿五輪塔



喜入地域で在銘のものとしては、最も古い五輪塔で、川中集落南、竹林の中にあります。

四基の中の一基の火輪正面に、「比丘尼定阿聖霊・正和元年壬子十月五日生年四十六扼去」と刻まれており、嘉元10年(1312年)当時の給黎院郡司職和泉資保の夫人ではないかと推測されています。

【前之浜校区川中集落】

⑤ 鈴の虚空蔵菩薩



鈴集落の西方の小高い岡に虚空蔵菩薩が祭られています。虚空蔵菩薩は、大空のように広く、限らない知恵と慈悲をもたらす菩薩と言われ、古来よりこの地の菩薩は、「痲瘡」の神として尊崇され、かつては喜入地域外からも参拝者が訪れていました。

【前之浜校区鈴集落】

⑥ 鈴のアッカドン



アッカドンと呼ばれているのは、秋葉大権現のことで、火伏せの神です。普通は集落を見渡す高いところにあります。鈴集落のアッカドンは下木場田の丘の上にあり、傍らに仏像がありますが、これは下方の田地から移したものです。

【前之浜校区鈴集落】

NUKUMI

喜入生見町



①メヒルギ自生地



メヒルギ(リュウキュウコウガイ)は、国道226号線沿い、喜入生見町米倉付近のものが北限とされ、国の特別天然記念物に指定されています。【喜入地域には、本指定地域以外にも、愛宕川流域に大きな群落があります。】

【生見校区米倉集落】

②一里塚



喜入地域では、現存する唯一の一里塚で、米倉集落から生見集落へかけての国道226号線沿いにあります。

鹿児島から山川への道路整備がされたとき、里程と方向を示したもので、道程1里ごとに石柱をたて、旅の便をはかったものです。

【生見校区米倉集落】

③龍王山源廣院跡



寛文5年(1665年)肝付氏5代領主久兼の弟、阿多津介忠朝の霊を弔うため、家臣白浜賢右門の請願で、源廣院が建てられました。(忠朝には、嗣子が無いことを悲しんでその霊を弔いました。) 往事の名残として、生見小学校の南西の墓地の一角に、一体の観音像が残されています。

【生見校区生見集落】

④帖地の田の神



帖地集落の西方の田んぼの土手に鎮座しており、建立年代は不明で、像の高さ83cm、台座の高さ40cmの凝灰岩製です。喜入地域内現存の田の神では、最もよく原形を留めており、市の文化財に指定されています。

【生見校区帖地集落】

⑤帖地の山の神



山の神は、荒神ともまた女神ともいわれ自然の樹木や岩石がご神体となっています。山の神を信仰すれば、家族が元気で山野の作物が豊作であると言われています。この地は、一歩足を踏み入ると大へごが目に入り、一種独特の雰囲気を感じさせています。

【生見校区帖地集落】

⑥千貫平自然公園



千貫平自然公園は、標高577m周囲15km²の公園で、一帯には、つづじや低灌木が繁茂し、天気のよい日には、開聞岳、桜島をはじめ知林ヶ島、遠くは、硫黄島をのぞむこともできます。千貫平の名の由来は、定かではありませんが、千貫の巨岩があったからだと、千貫で買い取った牧場があったからだと伝えられています。

【喜入生見町(指宿スカイライン沿い)】